

京都コースからの7がみ



2021年12月発行
第82号

〒612-0817 京都市伏見区深草向ヶ原町17
TEL:075-641-8280 FAX:075-642-8588
メールアドレス: mc.kyoto@theia.ocn.ne.jp

モンテッソーリ思想における「いのち」の尊重と保育者の使命

日本モンテッソーリ協会(学会) 会長
青山学院女子短期大学名誉教授

前之園 幸一郎

国内で二〇二〇年一月に新型コロナウイルス感染症が確認されてから現在に至るまで連日「本日の新規感染者数、重症者数、死亡者数」が新聞やテレビで克明に発表されています。コロナ禍は多くの変化を私たちにもたらしました。その中で特に注目されるのは「いのち」についての私たちの見方や感じ方の変化ではないかと思われま

す。日ごとに「本日の死亡者数」が数字で示されています。数字は個々の具体的な人間の存在を無機的な統計上の数(かず)に埋没させてしまいます。私たちは誰にも名前があり、その固有の名前によって営まれる人生の主人公です。ところが具体的な個人の「存在」が数字によって見えなくなってしまうのです。いつしか私たちは無意識のうちに単なる数字としてだけ眺めているのではないのでしょうか。数字の奥にある「いのち」の存在の重要性には気づかされていらないと思います。

モンテッソーリ教育は、まさに自然の一部に属する生きものとしての人間の「いのち」への着目から始まりました。モンテッソーリ思想の根底に一貫して流れているのは「宇

宙的ヴィジョン」(ヴィジオーネ・コスミカ visione cosmica)です。このヴィジョンにもとづく自然の普遍的な原理の視点をよりどころに「いのち」の問題を考えてみましょう。

モンテッソーリによると、地球上のすべての存在は相互に依存しながら全体としての世界を構成しています。夜空の星たちの運行が季節の推移に規則的に従うように、例えばハチや蝶は自然界を支配する法則性に従って花から蜜を吸ってそのお返しに花の受粉を行います。ミミズはその体重の二〇〇倍以上の土を毎日食べると言われています。それは自分の「いのち」の維持のためだけでなく、やせた土地を肥沃な土壌に変えるための使命としての仕事だと考えられています。

それぞれの生物には「宇宙的使命」(ミッシオーネ・コスミカ missione cosmica)が与えられているとモンテッソーリは考えました。人類の「いのち」も他の被造物に大きく依存しています。食物連鎖の事実がそれを物語っています。海中の微細な植物性プランクトンが巨大なクジラに至るまでの食物連鎖を支えており、人類もその恩恵を享受して生存していると考えられています。

この自然界の相互依存の關係は無意識のうち「いのち」の連鎖に奉仕しています。その事實は、宇宙を全体として統括し調和を成り立たせている人知を超えた普遍的原理の存在へと私たちの目を向けさせます。モンテッソーリの「宇宙的世界観」が私たちに示しているのは、「一滴のしずくが大宇宙を宿し、一瞬の星のまたたきに永遠の時間が凝縮されている」自然の神秘への畏敬のまなざしです。

モンテッソーリは自然の最大の神秘の一つとして人間の新生児を挙げています。「子どもは創造者である。無から人間を創造する(Dal niente crea l'uomo)。この強力な創造的能力は地球上のあらゆる場所のすべての人間の子どもに共通するものである。子どもは創造的精神は計り知れないエネルギーを持っており、それは崇拜すべき法則によって導かれている」。モンテッソーリは、幼児が一人ひとり違う人間に、つまり私自身になろうと「人間の建設」動しんでいる存在だと述べています。

その「人間の建設」のための幼児の成長発達、幼児自身の内部に存在する「吸収する心」と「目に見えない先生」によって推し進められます。幼児が自分の意志で言葉を発し話せるようになる、あるいは赤ちゃんが自分で歩けるようになる、などは外部から教え込むことはできません。

「目に見えない先生」とは自然によって与えられている子どもの内面に存在する発達のプログラムを意味します。子どもは成熟へのプロセスを各自が自分のペースで歩み、それぞれに内部的に定められた時期が来ると、「目に見えない先生」のうながしによって自分自身で自発的に行動するようになります。さらに「吸収する心」に支えられて子どもは自ら成長発達する生命的エネルギーと能力を主体的に発揮します。それが「人間の建設」の独自な実現を可能にするのです。

保育者は子どもを静かに観察しなければならぬとモンテッソーリは繰り返し強調しています。保育者が、「いのち」の主体である子どもの成長を丁寧に援助する奉仕者としてその能力を発揮するためには「子ども理解」が不可欠だからです。さらに保育者自身も、子どもの成長とともに観察を通して自己変革を遂げなければなりません。保育者は「子どもと共に」自分自身も育たなければならぬからです。

モンテッソーリ教育においては大人による「先回り保育」が厳しく退けられます。なぜなら、それが自然の一部に属する子どもの本性に徹底的に反しているからです。子どもの本来的な発達の健やかな実現を願うモンテッソーリ教育は、保育者、つまりモンテッソーリ教師の円満な人間性と子ども観察による絶えざる自己変革の努力の上に展開さ

れているのです。

コロナ禍のもとで抽象化されて見えにくくなっている「いのち」を重視し育てることこそがモンテッソーリ教育の基本原理であることを確認したいと思います。

訃報

令和三年十一月六日 田崎睦子先生
(長崎藤原幼稚園) がご逝去されました。
享年九十四才

令和三年十二月九日 ハンス・エルスナー先生(ドイツモンテッソーリ小学校元校長) がご逝去されました。

享年九十八才

お二人共、モンテッソーリ教育実践と普及に尽力され、多大な功績を残されました。特に京都コースでは学生指導・講演会などを通してたくさんのお学びをいただきました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



エルスナー先生の絵

幼稚園紹介

「地球の道」を歩く

宮津暁星幼稚園(京都府)

井隼 直子

本園は海や山がすぐ傍にある宮津市の市街地に立地し、子どもたちは縦割りクラスで過ごし、また二歳児クラスの人たちとも一緒に園から歩いて行けるほどの距離に海があり、また山も近くにあるのですが、園の中では経験できない体験を…と願い、年長になったら「京都府立丹後海と星の見える丘公園」(通称うみほし公園)に出かけています。

「京都府立丹後海と星の見える丘公園」は園から車で約四〇分の位置にある、里山がそのまま公園になっている自然あふれる場所です、みんなが大好きな場所です。

年長の子どもたちは学期に一回ずつ「うみほし公園」を訪れ、いろいろな体験をさせてもらいます。田んぼで手植えをする「田植え」、川遊び、焚き木を集めおくどきんで新米を炊いてのおにぎり、道なき道を通りながら海が見える丘まで行く探検など、毎年公園のスタッフの方と相談をしていろいろな体験を考えていきますが、小学校入



公園の山で焚き木集め

学を控えた三学期には、地球の問題についてその本質を考える「京都自然塾」へ地球の道への体験をさせていたいただいています。

「地球の道」体験に出かける前、子どもたちと「せいめいのれきし」(バージニア・リー・バートン)の本を一緒に見ながら、私たちの住む地球がどのようにして生まれたのかを学ぶ時間を作っています。

太陽はどんな天体なのか、私たちの銀河系、地球の誕生など、興味津々！眼をキラキラさせて話を聞く人もいます。

「太陽ってすごく大きいんやねー」「銀河系にはいろんな星があるんや」「地球は太陽から何番目?」「月は、地球の周りを回ってるんやな」「地球は太陽の周りを回ってる。月は地球の周りを回ってる?でも、お日様が沈んだら、月が出るよ?なんで?」…等、子どもたちはいろんなことに興味を持ち、不思議に思うことを話したり、調べたりしながら、「せいめいのれきし」の話を楽しんでいきます。

長い長い時間をかけて、やっと地球に誕生した生物。その原始的な形に驚き、「キョウ

リュウは?」「まだまだ出てこないよ」「えー、そうなんや」と、またびつくり!

「恐竜」は生物の元始くらいに思っている子もいて、生命の進化について知る機会に繋がったりします。

ある年、年長児で、太古の海の中で生きていた生物にとっても興味を持った男の子(A君)がいました。A君は、古生代から中生代の生き物を図鑑で調べて、何枚も絵を描いてきてくれました。

A君の絵を一緒に見ながら、「この生物はカンブリア紀の生き物だね」「大きさは…これくらい!すごい!大きい!」「これは、どの時代の生き物かなあ」「など、調べていきました。A君くんは、その絵をとっても大事に持っていました。

古生代、中生代、新生代と進み、やっと「にんげん」の登場辺りまで話を聞いて、「うみほし公園」での四六億年地球の道の体験に出かけます。



「石の地球」で地球の中を見る子どもたち

このプログラムは四六億年を四六〇メートルにぎゅっと縮めて地球がどんな変化をしながら現代に至ってきたかを体験する、小学生以上

を対象とした内容で、就学前の子どもたちには難しいと言われるようですが、「せいめいのれきし」で事前学習をしている年長児にとつては、園で話を聞いての体験ですから、楽しみが膨らみます。

公園のスタッフの方は子どもたちがちゃんとわかるように、丁寧にお話をさせていただきます。

まず私たちが住む地球の中はどんな風になつているのか、私たちはどんなところに住んでいるのかを『石の地球』を見て教えてもらいました。

それから山道に進み、地球の道を歩きます。

一〇センチ進むと一〇〇万年という、途方もない時間の道を歩きながら、地球がどんな風にして生き物が住む星になったのかを体験していきます。



白く塗られた道が
氷河の時代を表しています

地球の道の最後では、人間が登場してから今私たちが生きているこの時代までがどれだけ短いかを目で見て知り、更にこの短い間に、地



公園のビオトープで
生き物探し

球が長い時間かけて作ってきた大切な資源をどれだけ使っているかということも教えてもらいます。子どもたちはそれぞれに「環境」について感じ、「私たちにできる事」を一緒に考える機会となります。

「地球の道」体験の後は広場でお弁当を食べ、自然の中で発見をしたり遊んだり楽しい時間を過ごして帰ってきます。

その後、園の遊戯室に四六メートルの道を作り、「せいめいのれきし」の絵本から要所をいくつかコピーして、みんなでの時代の事かを確かめながらおいていく最後の振り返りをします。

この年、A君に、描いていた絵をもう一度振り返りの時に持ってきてもらいました。「これはサウロスクスヤから…ここ」「これは…」と、子どもたちは一緒に見ながら、A君の絵を四六メートルの道に置いていきました。

A君の絵を重ねることで、生き物にとつて水がどれだけ大切かということも改めて



A君の絵をそれぞれの時代に
置いてみる

よくわかった振り返りになりました。

「地球の道」を歩くというプログラムに参加する事で、地球だけではなく宇宙に興味や関心を持つ人もいま

す。銀河系の星を凶鑑で見ながら、「どんな星なんだろう」と友達と話す子、「星って死ぬの?」「星は死んだらどうなるの?」と星の一生に関心を持つ子、また大好きな恐竜について改めて知り、もう一度凶鑑を見直す子など、一人一人の興味や関心の違いに、私たちもワクワクしながらその姿を見て、共感し、一緒に考え、調べたりしています。

毎年参加するプログラムですが、子どもたちの思いはそれぞれです。

何に興味を持つか、関心に繋がるか、子どもたちの姿もそれぞれです。

そして、知りたいと思う気持ちがあれば知る方法があることを、子どもたちが探していけるように、探すことが楽しく、嬉しくなるように、一緒に考えていけたらと思っています。

「コロナ禍のコース開催」

峡南幼稚園（山梨県）

徳田 諭

長引く新型コロナウイルス感染症拡大で、世界中が未曾有の事態を経験しています。昨年度は、日々変わっていく状況に戸惑いながら各園とも登園自粛、臨時休園、感染症防止対策をとりながらの保育、行事の見直しを行ってきたことと思います。

その様な苦しい状況下で京都モンテッソーリ教師養成コースは、昨年度一年間自粛となり、その間コーススタッフの先生方は、オンライン会議を積み重ね、どのようなすれば安全に勉強が続けられるのか、オンラインでの授業を受ける学生さんのモチベーションへの配慮、お仕事の提供の仕方が画面を通してどこまで伝わるのかなど多くの課題と向き合いながら検討し模索されました。そして今年度から実際に深草子どもの家で学ぶ学生さん、地方別に分かれた拠点園にてオンラインで学ぶ学生さん等、分散での授業がスタートいたしました。学ぶ中で、コロナウイルスの感染拡大の影響で、京都での対面授業が出来ずにオンライン授業のみの期間もあり、受講す

る学生さんも講師の先生方も困難な状況が続きました。その中でもコースの学びが何とか継続されていたことは、本当にすごいことだと思っています。

オンラインでの授業は、受講する学生さんや拠点園の先生方も初めてのことで、機器の扱いに不慣れで上手く受信できず苦戦しながらも受講される園もあつたかと思えます。また、授業を配信する講師の先生方やスタッフの方々も大変ご苦労があつたことを想像いたします。オンライン授業がスタートした当初は、目の前で見る授業と画面越しの授業の違いに戸惑いもありました。教具・教材が白飛びしてしまい見にくくなつてしまつたり、音声が聞き取りにくかつたり、映像が止まつてしまつたり、いろんなハプニングがありましたが、回を重ねるごと受講する側も配信する側もオンラインの授業に慣れ、スムーズに授業が進むようになってきました。このオンライン授業の良さは、講師の先生の手元がよく見えることで、机や絨毯の上の配置や手順が理解しやすいと感じました。その一方で、お仕事の提供する手順だけでない、提供する際の教師が意図とする緩急や間、お仕事を子どもにとって分かりやすく

魅力的に提供する雰囲気やオンラインでは、なかなか伝わりにくかつたかもしれません。しかし、講師の先生やスタッフの方々が、画面が見えにくい時には、机の色や照明を工夫したり、講師の先生方の洋服の色を配慮下さつたり、色々な手段で改善していただきました。また、音声が聞き取りにくい時や映像が止まつてしまつた時には、もう一度同じ提供をして頂き本当に丁寧なオンライン授業だつたと思えます。モンテッソーリ教育の素晴らしさを学生さんに届けたいという熱いおもいが画面から伝わってくるようでした。学生さんもその思いを感じながら受講していたのではないのでしょうか。オンラインの講義を通して講師の先生方やスタッフの方々が、子どもへお仕事を提供する際の心の碎き方と同じように、学生さんたちにモンテッソーリ教育を伝えようと心を砕いて下さる姿が印象的でした。

来年度どのような授業形態になるのかわかりませんが、コロナ禍であっても、コースの学びを通してモンテッソーリ教育の理解を深め、その中身の素晴らしさを学生の皆さんが学び取ることができるよう願っております。

「京都モンテッソーリ教師養成コース・深草こどもの家」学校法人化プロジェクト ご寄付のお礼と進捗状況

学校法人化支援事務局が発足してから、早や一年の月日が流れました。そして今年の夏からは寄付活動もはじまり、多くの方々からのご支援をいただき感謝申し上げます。

ご寄付総額は十二月十七日現在 51543317円 (227件) となりました。

モンテッソーリ教育関係者、京都コースの卒業生からは、多額のご寄付と共に沢山の応援メッセージをいただいています。

「京都コースで学んだことで、人生が変わりました。」

「深草こどもの家は私の聖地です。」

「人生の宝物になりました。」

「これからも未来の子どもたちや、モンテッソーリ教育について学ぼうとする現場の先生方のために『深草こどもの家』の学校法人化が実現し、こんなに素晴らしい『自由な学びの環境』が続いていきますように心より応援しております。」

今、なぜ学校法人(認可幼稚園)を目指すのか、今のままで良いのではないか。

深草こどもの家は創立以来今まで四十二年間、国からの補助金は一切なしに認可外の保育施設として運営してまいりました。これまで京都府に対して何度も認可の願いを伝えてきま

したが、全く話をきいてもらえませんでした。ところが昨今のモンテッソーリブームでモンテッソーリ教育が世の中で認知されはじめ、京都府が動いてくれました。

京都市で新しい学校法人が四十年以上でできていない状況を考えると、これはとても大きなことです。このチャンスをはたしてはいけません。と思います。

認可と認可外の施設では、世の中の信用度が全く違います。

現に、大学その他で若い学生がモンテッソーリ教育を学ぼうとしても、認可外の施設では教員免許に必要な実習の単位が取れないために、ここでは実習ができないのです。つまり、公の教育として認められていないのです。

京都コースの内容を完全に実現するために設立された「深草こどもの家」は、どこにも負けないくらい、子どもたちにとって良い生活ができる場であると自負しています。

そして、京都コースで学ぶ学生にとつては、理論と実践を学び、実際の子どものたちの生活にどのように活かされているのか、目の前でくり広げられる光景に納得し、自らの学びとなって、全国のそれぞれの地に戻って、種をまきつづけているのです。

この重要な拠点である京都コースと深草こどもの家は日本の未来・社会に必要な場所なので。

なぜ寄付なのか

新しく学校法人を設立する際には、銀行からの融資を含め、借入金があつてはならないと決められています。土地整備と園舎建て替えの費用は自己資金だけではどうにもならず、寄付に頼らざるを得ないのです。

皆さま方にお送りした寄付のパンフレットがまだお手元に届いていない方は、ぜひこちらまでお知らせ下さい。

現在、たくさんのご支援を頂戴しておりますが、目標額が約二億円という、とてつもなく大きい額ですので、様々な人々につながる様、ご寄付のみならず、様々な情報や、今後の有効な手段としての皆さまのお知恵や人脈をぜひ私共に教えて下さいますようお願い申し上げます。

寄付活動はまだはじまったばかりです。二〇二四年開校を目標にしています。今後共どうぞよろしくお願い申し上げます。

学校法人 設立準備会代表

根岸 美奈子



今年もあとわずかとなりました。この一年もコロナ禍での日々でしたが、子どもたちの明るく、元気な声が今日も園内に響いています。わかば会の皆様、今年もお会いできませんでしたが、いかががお過ごしでしょうか？きっとそれぞれ置かれた場所で、仲間と共に、考え、悩み、選び、歩んでいく日々であったと思います。そして目の前の子どもたちに目を向けると、この状況の中にあっても、変わらず、毎日を精一杯過ごす姿がありました。大人である私が、何度も勇気づけられた日々でもありました。

今年度のコースも再開されましたが、ウェブでの受講がほとんどで、なかなか深草に集まることも難しい状況だったと伺いました。通常時のコースと違い、困難な

こともたくさんあったと思います。園にいる卒業生の先輩に聞いたり、コース生同士で練習の時間をとったり、卒業試験や進級試験に向かってがんばっています。無事に試験が行えますことを皆で祈りたいと思います。コースの学生の皆さん、頑張ってください！

来年はどんな年になるのでしょうか？期待と不安の両方がありますが、子どもたちのように、明るく、未来を信じて歩めるよう努力したいと思います。皆様とお目にかかれる日が訪れますように。最後になりますが、年会費の振り込みのご協力をお願いいたします。会費より、コースからの手紙送付の補助や名簿の管理、会計の管理を行っております。二年間、わかば会の総会も行うことができず、ご報告が遅れて申し訳ございません。次年度にまとめてご報告させていただきますのでご了承ください。新年を迎えるにあたり、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

わかば会 会長

滋賀カトリック学園 聖母幼稚園

園長 井上美幸

◆会費納入について

◎振込先

02 東京 00150-9-82053
京都モンテッソーリ教師養成コースわかば会

◎年会費：

1,500 円

※ 長期滞納の方は再入会金
1,000円と2021年、2022年の
2年分 3,000円
計4,000円をご送金ください。

◎問い合わせ先

わかば会 井上美幸 聖母幼稚園
〒520-0802 滋賀県大津市馬場2丁目6-62
TEL 077-523-0480
FAX 077-500-7749
Eメール: seibo-nike@dune.ocn.ne.jp



友好学園

「こどもの家」 集団便り

(京都コースで研究開発された教材の販売部)



●出席カードについて

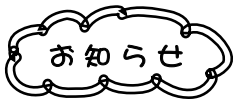
出席カードA…土・日・祝日を入れたその年度専用。

出席カードB…Aと内容は同じ。但し、土・日・祝日が記してないので、毎年使用可能。

★出席カードAを購入希望の方は、早めにご注文下さるようお願いいたします。

ご注文はFAX でお願ひします。 FAX075-645-4181

注文先・発送部：〒612-0838 京都市伏見区深草神明講谷町 2-4 HP: www.montessorimaterial.jp



お知らせ

○編入試験

今年の基礎コース生はオンラインの授業のみでしたが、提出物・見学実習を終了した方を対象に、下記の通り編入試験を行います。

と き：2022年2月12日(土) 9:00～16:00頃まで
と ころ：深草こどもの家(京都)

申込締め切り：2022年1月21日(金)まで

※申込書の必要な方は事務局までご請求ください。

○2022年度募集要項

京都モンテッソーリ教師養成コースの2022年度募集要項ができました。お知り合いの方々にご紹介ください。また宛先をお知らせいただければ直接郵送もいたします。ホームページでもお知らせしています。願書の用紙もダウンロードしていただけます。

予告

2022年日本モンテッソーリ協会(学会) 第54回全国大会 in さっぽろ 大会テーマ『共生』～ともに生き、ともに育つ～

日 時：2022年7月31日(日)～8月1日(月)

ワークショップ担当：京都モンテッソーリ教師養成コース

開催形式：対面式、オンライン他を検討し直しています。

■2022年度 基礎コース日程表 (在籍者は下記のどの会場でも何回でも受講できます)

福岡会場－若草保育園(福岡市)

東京会場－聖パトリック幼稚園
(東京 豊島区)

札幌会場－藤幼稚園(札幌市)

○札幌会場(全日程 9:00～16:00)

8月 3日(水)～10日(水)

2022年度は第Ⅰ課程のみです。

○福岡・東京は同日開催です

【第Ⅰ課程】

4月 16日(土) 17日(日)	9月 3日(土) 4日(日)
5月 21日(土) 22日(日)	10月 15日(土) 16日(日)
6月 18日(土) 19日(日)	11月 19日(土) 20日(日)
7月 2日(土) 3日(日)	12月 17日(土) 18日(日)
土曜日 14:00～18:00)…土・日を1回として年8回
日曜日 9:00～16:00	

【第Ⅱ課程】

お知らせとお願い

2022年度の京都コースの日程は、専門コース・基礎コース共に上記又は募集要項に示した通りです。コロナウイルス感染症が再び拡大した場合は、今年度同様オンライン又はオンラインと対面の方法をとらざるを得ない状況になることも予想されます。入学願書を提出された方には、その都度お知らせいたしますのでご了承ください。

日本モンテッソーリ協会(JAM) 近畿支部主催 研修会のお知らせ

コロナ感染症の収束が見通せない状況にありますので、2021年度の近畿支部研修会も下記のプログラムで、ZOOMによるオンラインでの開催といたします。

日 時：2022年1月10日(月) 10時～12時 会 費：無料

プログラム 10:00～

講演「これからの共生社会を支えるモンテッソーリ教育の意義
～偏見のない平和な世界を目指して」

11:30～

講師：平野知見先生(京都文教大学こども教育学部こども教育学科准教授)

12:00

質疑(質問・感想はチャットを使ってお願いします)

終了

お問い合わせは JAM 近畿支部長 瀧野 神父様 まで

メールアドレス：takino@kyoto.catholic.jp